

誤

出来形管理基準及び規格値 第6編 道路編

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	敷 砂 利		砂利舗装工	幅 B	- 100	
						厚 さ T	- 45	
						施 工 延 長 L	- 0.2% ただし延長50 m未満 - 100	
	林 道	土 工			道路土工 残土処理場	基 準 高	± 100	
						幅 B	- 100 ~ + 200	
						法 長	S · < 4 m	± 200
							S · 4 m	± 5%
						測 点 間 延 長	L 40m	± 200
							L > 40m	± 0.5%
						測 点 位 置 中心線のズレ ( e )	左右 100	
						小 段 ( b )	± 100	
の り 勾 配 ( i )	± 0.5分							
	林 道	法 面 工			植生工 (種子散布工) (客土吹付工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生ネット工) (種子帯工) (人工張芝工) (植生穴工)	の り 長 S ·	S · < 4 m	- 200
							S · 4 m	法長の - 5%
						延 長	- 100	
	林 道	法 面 工			植生工 (植生基材吹付工)	法 長 S ·	S · < 4 m	- 200
							S · 4 m	法長の - 5%
						厚 さ	t < 5 cm	- 10
							t 5 cm	- 20
						t	但し、吹付面に凸凹がある場合の 最小吹付厚は設計厚の50%以上と し、平均値は設計厚以上	
						延 長	- 100	

正

出来形管理基準及び規格値 第6編 道路編

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	敷 砂 利		砂利舗装工	幅 B	- 100	
						厚 さ T	- 45	
						施 工 延 長 L	- 0.2% ただし延長50 m未満 - 100	
	林 道	土 工			道路土工 残土処理場	基 準 高	± 100	
						幅 B	- 100 ~ + 200	
						法 長	SL < 4 m	± 200
							SL 4 m	± 5%
						測 点 間 延 長	L 40m	± 200
							L > 40m	± 0.5%
						測 点 位 置 中心線のズレ ( e )	左右 100	
						小 段 ( b )	± 100	
の り 勾 配 ( i )	± 0.5分							
	林 道	法 面 工			植生工 (種子散布工) (客土吹付工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生ネット工) (種子帯工) (人工張芝工) (植生穴工)	の り 長 SL	SL < 4 m	- 200
							SL 4 m	法長の - 5%
						延 長	L	- 100
	林 道	法 面 工			植生工 (植生基材吹付工)	法 長 SL	SL < 4 m	- 200
							SL 4 m	法長の - 5%
						厚 さ	t < 5 cm	- 10
							t 5 cm	- 20
						t	但し、吹付面に凸凹がある場合の 最小吹付厚は設計厚の50%以上と し、平均値は設計厚以上	
						延 長	L	- 100

誤

出来形管理基準及び規格値 第6編 道路編

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
	林道	法面工			吹付工 (コンクリート) (モルタル) (特殊モルタル)	法長 S・	S・ < 3 m	- 50
							S・ 3 m	- 100
						厚	t < 5 m	- 10
							t 5 m	- 20
						t	但し、吹付面に凸凹がある場合の 最小吹付厚は、設計厚の50%以上 とし、平均厚は設計厚以上。	
						延 長 L	- 100	
							林道	法面工
S・ 10 m	- 200							
幅	w	- 30						
高 さ h	- 30							
吹付枠中心間隔 a	±100							
延 長 L	- 100							
	林道	小型水路工			側溝工 (素堀) (植生工)			
						幅	b	- 50
						延 長 L	- 0.1% 最大 - 200	

正

出来形管理基準及び規格値 第6編 道路編

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
	林道	法面工			吹付工 (コンクリート) (モルタル) (特殊モルタル)	法長 S L	S L < 3 m	- 50
							S L 3 m	- 100
						厚	t < 5 m	- 10
							t 5 m	- 20
						t	但し、吹付面に凸凹がある場合の 最小吹付厚は、設計厚の50%以上 とし、平均厚は設計厚以上。	
						延 長 L	- 100	
							林道	法面工
S L 10 m	- 200							
幅	w	- 30						
高 さ h	- 30							
吹付枠中心間隔 a	±100							
延 長 L	- 100							
	林道	小型水路工			側溝工 (素堀) (植生工)			
						幅	b	- 50
						延 長 L	- 0.1% 最大 - 200	

誤

出来形管理基準及び規格値 第6編 道路編

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
	林道	小型水路工			側溝工 (プレキャストU型側溝・L型側溝) (コルゲートフリューム) (自由勾配側溝)	基 準 高	± 50
						延 長 L	- 0.1% 最大 - 200
	林道	小型水路工			現場打水路工	基 準 高	± 50
						厚 さ t <sub>1</sub> t <sub>2</sub>	- 10
						幅 w	- 30
						高 さ h <sub>1</sub> h <sub>2</sub>	- 20
						延 長 L	- 0.1% 最大 - 200
	林道	小型水路工			集水桝工	基 準 高	± 50
						厚 さ t <sub>1</sub> ~ t <sub>5</sub>	- 10
						幅 w <sub>1</sub> w <sub>2</sub>	- 30
						高 さ h <sub>1</sub> h <sub>2</sub>	- 20
	林道	小型水路工			コンクリート管工	基 準 高	± 50
						延 長 L	- 0.1% 最大 - 200
	林道	小型水路工			コルゲートパイプ工 合成樹脂管	基 準 高	± 50
						変 形 量 ( n )	e / D ± 5%
						ス パ ン ( S )	± 2%
						延 長 ( ・ )	- 0.1% 最大 - 200
	林道	小型水路工			地下排水工	基 準 高	± 50
						幅 w <sub>1</sub> w <sub>2</sub>	- 50
						深 さ h	- 30
						延 長 L	- 0.1% 最大 - 200

正

出来形管理基準及び規格値 第6編 道路編

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
	林道	小型水路工			側溝工 (プレキャストU型側溝・L型側溝) (コルゲートフリューム) (自由勾配側溝)	基 準 高	± 50
						延 長 L	- 0.1% 最大 - 200
	林道	小型水路工			現場打水路工	基 準 高	± 50
						厚 さ t <sub>1</sub> t <sub>2</sub>	- 10
						幅 w	- 30
						高 さ h <sub>1</sub> h <sub>2</sub>	- 20
						延 長 L	- 0.1% 最大 - 200
	林道	小型水路工			集水桝工	基 準 高	± 50
						厚 さ t <sub>1</sub> ~ t <sub>5</sub>	- 10
						幅 w <sub>1</sub> w <sub>2</sub>	- 30
						高 さ h <sub>1</sub> h <sub>2</sub>	- 20
	林道	小型水路工			コンクリート管工	基 準 高	± 50
						延 長 L	- 0.1% 最大 - 200
	林道	小型水路工			コルゲートパイプ工 合成樹脂管	基 準 高	± 50
						変 形 量 ( n )	e / D ± 5%
						ス パ ン ( S )	± 2%
						延 長 ( L )	- 0.1% 最大 - 200
	林道	小型水路工			地下排水工	基 準 高	± 50
						幅 w <sub>1</sub> w <sub>2</sub>	- 50
						深 さ h	- 30
						延 長 L	- 0.1% 最大 - 200

誤

出来形管理基準及び規格値 第6編 道路編

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
	林道	石・ブロック積・張・工			コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積み) (コンクリートブロック張り)	基 準 高		±50
						延 長	・ <10m	- 50
							・ 10m	- 0.5% 最大 - 100
						の り 長 ( S )		- 50
						の り 勾 配 ( i )		±0.3分
						厚 さ	面から裏込 ( t <sub>1</sub> )	- 20
裏込め ( t <sub>2</sub> )	- 30							
	林道	擁壁工			現場打擁壁工	基 準 高		±50
						高 さ ( h )	h < 2m	- 20
							h 2m	- 1% 最大 - 50
						幅 ( b )	b < 1m	- 20
							b 1m	- 30
						の り 勾 配 ( i )		±0.2分
延 長 ( ・ )	・ < 10m	- 50						
	・ 10m	- 0.5% 最大 - 100						
	林道	擁壁工			補強土壁工	準 備 高		±50
						高 さ h		- 50
						の り 勾 配 ( i )		- 0.3分
						延 長 ( ・ )	・ < 10 m	- 50
・ 10 m	- 0.5% 最大 - 100							

正

出来形管理基準及び規格値 第6編 道路編

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
	林道	石・ブロック積・張・工			コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積み) (コンクリートブロック張り)	基 準 高		±50
						延 長	L < 10m	- 50
							L 10m	- 0.5% 最大 - 100
						の り 長 ( S )		- 50
						の り 勾 配 ( i )		±0.3分
						厚 さ	面から裏込 ( t <sub>1</sub> )	- 20
裏込め ( t <sub>2</sub> )	- 30							
	林道	擁壁工			現場打擁壁工	基 準 高		±50
						高 さ ( h )	h < 2m	- 20
							h 2m	- 1% 最大 - 50
						幅 ( b )	b < 1m	- 20
							b 1m	- 30
						の り 勾 配 ( i )		±0.2分
延 長 ( L )	L < 10m	- 50						
	L 10m	- 0.5% 最大 - 100						
	林道	擁壁工			補強土壁工	準 備 高		±50
						高 さ h		- 50
						の り 勾 配 ( i )		- 0.3分
						延 長 ( L )	L < 10 m	- 50
L 10 m	- 0.5% 最大 - 100							

誤								
品質管理基準及び規格値								
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
						1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m <sup>2</sup> を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m <sup>2</sup> 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及び場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		
15-1 ロックボルト	施工	必須	引き抜き試験	切土補強土工法設計施工要領 参考資料「ロックボルトの引き抜き試験」	引抜き耐力の80%程度以上	試験本数は設計上の地質毎に3本を標準とする。 なお、これを最低本数として、必要に応じて試験本数を増やすことが出来る。 また、実施工に先立って実施する場合は、本施工とは別に試験用補強材を打設する。		
			確認試験	同上	同上	原則として3%かつ3本以上		
15-2 抑止アンカー工	施工	必須	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による	2回（午前・午後）/日		
			モルタルのフロー値試験	JIS R 5201	設計図書による	練りませ開始前に試験は2回行い、その平均値をフロー値とする。		
			適正試験	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説	設計荷重に対して十分に安全であること。	原則として5%かつ3本以上	グラウンドアンカー工に適用する。ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	
			確認試験	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説	設計荷重に対して十分に安全であること。	適正試験に用いられたアンカーを除く全本数10本ごとに1本のアンカー（初期荷重は、計画最大試験荷重の約0.1倍とし、計画最大試験荷重までの載荷と初期荷重までの除荷を行う。） その他のアンカー（計画最大試験荷重まで載荷する）	グラウンドアンカー工に適用する。ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	
16 吹付工	材料	必須	アルカリ骨材反応対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」（平成14年7月31日付け国官技第112号、国港環第35号、国空建第78号）」	「アルカリ骨材反応抑制対策について」（平成14年7月31日付け国官技第112号、国港環第35号、国空建第78号）」	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。		
			その他	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1-3	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。		
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1-3	飽乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 （砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照）	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。 JIS A 5005（砕砂及び砕石） JIS A 5011-1（高炉スラグ骨材） JIS A 5011-2（フェロニッケルスラグ細骨材） JIS A 5011-3（銅スラグ細骨材）		
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	粗骨材：1.0%以下 細骨材：コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0%以下（砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合はコンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下）	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。 （山砂の場合は、工事中1回/週以上）		
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	濃い場合は、JIS 5308「モルタルの圧縮強度による砂の試験」付属書3による。	
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 5308の附属書3	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。		
			骨材中の比重1.95の液体に浮く粒子の試験	JIS A 5308の附属書2	細骨材：コンクリートの外観が重要な場合0.5%以下 その他の場合1.0%以下 粗骨材：コンクリートの外観が重要な場合0.5%以下 その他の場合1.0%以下	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	スラグ細骨材、高炉スラグ骨材には適用しない。	
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）	工事開始前、工事中1回/月以上		

正								
品質管理基準及び規格値								
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
						1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m <sup>2</sup> を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m <sup>2</sup> 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及び場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		
15-1 ロックボルト	施工	必須	引き抜き試験	切土補強土工法設計施工要領 参考資料「ロックボルトの引き抜き試験」	引抜き耐力の80%程度以上	試験本数は設計上の地質毎に3本を標準とする。 なお、これを最低本数として、必要に応じて試験本数を増やすことが出来る。 また、実施工に先立って実施する場合は、本施工とは別に試験用補強材を打設する。		
			確認試験	同上	同上	原則として3%かつ3本以上		
削除								
16 吹付工	材料	必須	アルカリ骨材反応対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」（平成14年7月31日付け国官技第112号、国港環第35号、国空建第78号）」	「アルカリ骨材反応抑制対策について」（平成14年7月31日付け国官技第112号、国港環第35号、国空建第78号）」	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。		
			その他	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1-3	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。		
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1-3	飽乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 （砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照）	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。 JIS A 5005（砕砂及び砕石） JIS A 5011-1（高炉スラグ骨材） JIS A 5011-2（フェロニッケルスラグ細骨材） JIS A 5011-3（銅スラグ細骨材）		
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	粗骨材：1.0%以下 細骨材：コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0%以下（砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合はコンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下）	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。 （山砂の場合は、工事中1回/週以上）		
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	濃い場合は、JIS 5308「モルタルの圧縮強度による砂の試験」付属書3による。	
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 5308の附属書3	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。		
			骨材中の比重1.95の液体に浮く粒子の試験	JIS A 5308の附属書2	細骨材：コンクリートの外観が重要な場合0.5%以下 その他の場合1.0%以下 粗骨材：コンクリートの外観が重要な場合0.5%以下 その他の場合1.0%以下	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	スラグ細骨材、高炉スラグ骨材には適用しない。	
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）	工事開始前、工事中1回/月以上		

# 三重県公共工事共通仕様書(平成18年7月版)正誤表

平成18年7月20日正誤表

ページ	行	誤	正
1-5	13行目	ただし、予定価格の合計が3,000万円(建築工事のみの場合にあつては6,000万円)以下の場合はこの限りではない。	ただし、 <b>請負金額</b> の合計が3,000万円(建築工事のみの場合にあつては6,000万円)以下の場合はこの限りではない。
1-17	「表1-3施行状況立会一覧表」の「章」の列の4行目	1. 道路改良	1. 道路 <b>開設</b> ・改良
126	「出来形管理基準及び規格値第6編 道路編」の「章」の列の4行目	1. 道路改良・改良	1. 道路 <b>開設</b> ・改良
142 ~ 145	別紙のとおり	測定項目の記号	
265	別紙のとおり	P264の「14 アンカー工」に準拠のため削除。	